



服装と遅刻のこと

最近はだんだんと日が延びてきて、下校放送が入る5時ころはまだ明るいし、私が朝家を出る5時40分ごろも、だんだん明るくなってきた。推薦選抜のあった27日の日曜日、気温こそ低かったけれど、青空がまぶしい穏やかな日であった。

校舎改修のせいか、数字の上では男子の倍率が2.33倍（君たち＝3.15倍）、女子が4.20倍（君たち＝4.90倍）と、多少易化した感じはするが、評定45を基本として争われることを考えると、実質的な部分では決して易化したなどとはいえないのだろう。面接をなさった先生方全員が、どの受検生もしっかりしていて、全員合格…はまあ大袈裟だが、定員の2割しか合格を出せないのは、ちょっと可哀想だというのがご感想である。

＊

当然のことながら礼儀正しいし、服装や頭髪にも神経が行き届いている。入試だから当然ではあるが、そういう大切な時に、しっかりとした服装・態度がとれるというのは、やはり一つの大切な能力といえる。

もちろん、人間は外見ではない。しかし、ほんの十数分の面接で自分の人間性をすべて面接官に理解させることなど難しいだろうし、面接する側にしても、受検生のすべてを理解することなどできるはずもない。そう言う時に、外見的な印象も大切な要素として考えることは、ある意味当然である。だいたい、人を好きになったりするのだから、先ず最初はその人の外見の第一印象なのである。ちなみに、「人は外見ではない」などと主張する

人に限って、かえって内心では外見にとらわれているものだ。

日比谷は制服ではないが、きちっとした時にはきちっとした格好をしようという体制になっている。「～式」とか「～集会」といったタイトルがつく行事の時には、それにふさわしい服装をするように心がけよう。こういうことは、言われなくてももしっかりできるようになることが大切である。

大袈裟なようだが、例えば入試のような時期には、君たちが好むと好まざるとに関わらず、やはり日比谷は注目されるのだ。大きく「日比谷」と書かれたエナメルバックを持って歩いている学生がだらしない態度でいれば、それはやはり話題性をもってしまうのである。恵まれている人に対する世間の目は厳しいというのは、君たちにも分かるだろう（「恵まれている」というのは世間の評価であって、君たち自身の実感？ではない）。「そんな関係ねえ～」とばかりは言っていないこともあるのである。

＊

生活指導ついでに、遅刻についても一言。この時期寒いし、勉強も大変だしで遅刻傾向になるのは理解できるのだが、そこで遅刻しないことが大切なのであり、プライドなのである。朝練についても、急いで着替えるとか、走って教室に向かうとか、授業に影響のないように注意すること。落ち着いて授業に臨むことが、勉強の基本。体育の後や、特別教室への移動なども含め、4月当初の「初心忘るべからず」である。